

フィンランドの目

〈価値観 いろいろ 経済学〉 北欧のまち・北欧の自然

北欧の国々への思い

空からみる北欧の国々は、深い緑におおわれ、たくさん湖が眼下に広がっている。

私は、この地域の国々に対する素朴な疑問から、この地を訪れたいと思っていた。それは、なぜ小さな国なのに豊かな暮らしができるのか、どのように高齢者を支える社会福祉を実現させているのか、なぜ環境や景観に対する思い入れが強いのか……であった。そこには、

アメリカ的な弱肉強食の市場原理主義とは一線を画するものがあり、暮らしや文化に対する価値観の違いがあるような気がしてならなかった。

環境に配慮した交通システム

フィンランドといえば森と湖の国、ムーミンが連想されるが、携帯電話ノキアなどを生む技術立国でもある。フィンランドの街づくりは歴史的な修景への配慮に加え、環境負荷の削減を目標としてかけた流通システムに目を見張るものがある。

ヘルシンキの中心市街地の便利な足として利用されているトラムは、どのドアからも乗降できCO₂の削減目的で今でも市民の便利な足として利用されている。自動車を手放すだけでなくそうとする試みとして、車イスでも自由に乗り降り出来るエタノールバスの利用も

図っている。ガソリンの値段も1ℓ当たり一八〇円と日本よりも高い。こちらでは若い市民の足は自転車であり、色とりどりのヘルメットと手入れの行き届いたクロスバイクでさっそうと通勤している。



美しい景観へのこだわり

スウェーデンのストックホルム

は、北欧のベニスと呼ばれる美しい街である。一三世紀からの古い街並みをもとに、人間環境を大切に近代的な都市計画とをうまく調和させてきた。歴史的な修景の統一を図るためには、行政のなかに街並み委員会と呼ばれる指導機関を設け、建築家などの専門家の意見を取り入れ、外観の色や窓枠のデザイン一つでもチェックすることではできない。だから北欧では、新たに建築を建てるケースはほとんどなく、日本のような建設業は成り立たない。商売になるのは内装業者とデザイナーである。



北欧4ヶ国インフォメーション	
■フィンランド	面積：33万8145km ² 人口：約520万人 首都：ヘルシンキ 政体：議会制民主主義 言語：フィンランド語、スウェーデン語 通貨：ユーロ
■スウェーデン	面積：45万km ² 人口：約919万人 首都：ストックホルム 政体：立憲君主制 言語：スウェーデン語 通貨：クローナkrona
■ノルウェー	面積：38万5155km ² 人口：約467万人 首都：オスロ 政体：立憲君主制 言語：ノルウェー語 通貨：クローネKrone
■デンマーク	面積：4万3095km ² 人口：約544万人 首都：コペンハーゲン 政体：立憲君主制 言語：デンマーク語 通貨：クローネKrone、略号はDKK

ノルウェーの自然

■フィヨルドにある小さな家

北欧の国々では、白夜の短い夏と暗く厳しい冬が待っている。オスロの国立美術館でみたムンクの「叫び」を思い出す毎に、北緯六〇度に位置する当地の冬の厳しさが身にしみ込んでくる。

過酷な気候条件に耐えなければならぬノルウェーの若者のおだやかでゆったりとした態度と、日本の勝ち組と言われていた若者と比較すると大きな違いを感じてしまう。七月というのに長袖のジャケットが必要なのフィヨルド（氷河に浸食された内陸に深く入り込んだ峡湾）の一つ、「ガイランゲル」の「ブリックスタール氷河」を訪ね、その住民の生活の中にある底なしの明るさと無欲さに心を奪われる思いがした。ここでは、木材資源を豊富に持ちながら、わが国の住宅とほぼ同じような、愛くるしい小さな住宅が氷河の削り落としした大地に張り付き、人々が生活をしている。同じ広さの家に住み、大きな家を建てようという住民はいないという慎ましやかな生活姿勢にも感心させられた。ノルウェー

に住む人々は、美しい自然を守るために、小さな日々の努力を続けている。

■リレハンメル

の奇跡
冬季オリンピックが行われたリレハンメルのジャンプ台を仰いで、この国の自然を愛する気持ちが伝わってきた。

一九九二年ブラジルサミットで地球環境保全のため「アジェンダ21」が採択され、その二年後がリレハンメルのオリンピックであり、ノルウェーはそれを忠実に順守したのであった。つまり、森林王国でありながら、環境保全のため「木を切らない」と宣言し、やむを得ず木を切る場合は、一本八万円のコストをオリンピック委員会に要



求することとした。そして、オリンピックのために一本の木も伐採しなかったという事実は、敬嘆すべきことであった。

気の遠くなるような氷が溶けて無数の滝となり、地球の荒廃を肌で感じているノルウェーの人々が木を切らないで地球環境の保全に努めているのを見ると、頭の下がる思いがする。

デザインによる賑わいのまちデンマーク

アンデルセンの「人魚姫」で有名なデンマークのコペンハーゲンは、昔から北欧一の商都として栄えてきた。ドイツと接する九州ほどの面積しかないこの国は、無数の島々から成り立ち、昔から工業・建築の優れたデザインナーの宝庫であり、北欧文化の中心地でもあった。

コペンハーゲンの運河沿いのカラフルな街、〈ニューハウン〉には、たくさんの観光客が訪れる。かつて世界中の船乗りが訪れ賑わいをみせたこの街は、今では有名なレストランや土産物屋がたちならび、童話の国にいるような楽しさがあるふれている。

ニューハウンのすぐそばには、北欧を代表するショッピングスト

リート（ストロイエ）があり、陶器で有名なロイヤルコペンハーゲンの本店や銀器のジョージ・ジェンセンなどの専門店が建ち並び、見る・食べる・遊ぶスポットとして賑わいをみせている。

身の丈満足の経営

私達が生きていく上での悩みや障害はなんだろうか。それは子育て・教育、病気、高齢化という三つの苦しみである。北欧の国々ではこれら三つの悩みに対して、国が安全・安心をサポートしている。

しかし、この体制を保持するために平均五割以上もの高い所得税と、二五％にもほる付加価値税を国民一人ひとりに課している。一方国民は税の使い道に目を光らせ、ある意味納得しているのである。

我が国には、アメリカを目標にした欲望が多すぎ、ひとり勝ちが幅をきかせている。ここらで従来価値観を見直し「さらに成長を」という発想にブレーキをかけ、皆が少しずつ分かち合うことで「身の丈満足の生活」「身の丈に合った経営」を目指すべき時に来ているのではないだろうか。

（中小企業診断士 大塚慎二）